

トキ保護の普及・啓発活動

～トキと人とが共に暮らせる「朱鷺の里」の再生を目指して～

石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊

I. トキという鳥

国の特別天然記念物で国際保護鳥のトキは、昔、日本中にいた鳥で“とき色”のきれいな翼を羽ばたかせ、多くのトキが空を舞っていました。しかし、明治以降、乱獲や自然環境の悪化でどんどん数を減らして、遂には日本の野生のトキは、絶滅してしまいました。

その後中国から贈られたトキをもとに、国をあげての繁殖と野生復帰事業を佐渡で行い、現在（令和8年7月27日現在）では野生下（推定個体数473羽）と飼育（173羽）をあわせて、約650羽のトキが日本に生存しています。

私たちのふるさと石川は、本州最後の野生のトキ「能里（のり）」の生息地でした。そのことから、県はトキをシンボルとした野生生物の保護事業にも力を注ぎ、平成22年1月からいしかわ動物園でトキの分散飼育がスタートしました。また、平成28年11月には「トキ里山館」がオープンして、トキを間近に見られるようになりました。



II. 活動の目標・目的と結成

朱鷺サポート隊は、①石川県でのトキの分散飼育を後押しする ②トキの絶滅の原因や人と共生できる環境づくりを学習する ③トキ保護の啓発と里山保全に取り組むことを活動の目標としています。そして、これらの活動の成果として、石川の空にトキが飛び交い、そのトキと人とが共に暮らせる「朱鷺の里」を再生することを最終目的にしています。

平成20年11月1日（本校の創立記念日）に、NPO 法人日本中国朱鷺保護協会の村本名誉会長を講師に迎えて全校講演会が開催されました。これを機に、朱鷺サポート隊は、総合学科「花と緑」系列（現在は名称変更して園芸系列）の生徒を中心に結成されました。

III. 活動の経過

サポート隊の最終目的である「朱鷺の里」の再生は、言うのは簡単ですが、その実現には多くの時間と地域の方々の協力が必要になってきます。そこで私たちは、多くの人にトキのことを知ってもらい、そして、理解を深めてもらうことを当面の目標として、様々な普及・啓発活動を行っています。また、トキの学名がニ（2）ッポニア・ニ（2）ッポンであることから、毎月「22日はトキの日」を提唱し、この日をターゲットにした活動にも取り組んでいます。

1. 千羽トキの制作と贈呈

令和8年5月31日に本州初のトキの放鳥を記念して羽咋市、そして、10月7日に本州2例目となる放鳥を控えた中能登町に対して、「トキと共に暮らすまち」のキャッチコピーとともに「千羽トキ」を贈呈する予定です。

※羽咋市は8月28日に贈呈式を行う予定でしたが、26日に発生した大雨の影響で延期と



なりました。中能登町には
定です。組など多くのことを体験学習し、啓発・交流活動も行っています。

9月27日に贈呈式を行う予



2. トキめき工作教室(体験教室)

「いしかわ動物」をはじめ、羽咋市、中能登町をはじめ、地元の津幡町などの放課後児童クラブに出向いて、トキのポストカードの制作や配布、トキの折り紙など、多種多様な取り組みを行い、多くの人に楽しみながらトキへの理解を深めてもらっています。



3. NPO 法人日本中国朱鷺保護協会との連携

「いしかわ動物園」での活動や、放課後児童クラブでの活動などについて、NPO 法人日本中国朱鷺保護協会(以下:保護協会)の方々と連携して、2年ほど前より共同運営を行っています。保護協会主催の「いしかわ動物園」で開催された「鳥の巣箱づくり」などの活動にもサポートとして一緒に運営に携わりました。



4. 学校の探究活動にも発展

昨年度より、本校3年生の「総合的な探究」の授業で、トキのことを学習する朱鷺グループを設け、朱鷺サポート隊として、羽咋市にある「国際朱鷺保護交流資料館」を訪問して、NPO 法人日本中国朱鷺保護協会名誉会長であり石川県トキスーパーバイザーでもある、村本義雄(むらもとよしお)さんから話を聞くことができました。資料館もトキの資料で埋め尽くされており、とても幻想的な空間となっていました。



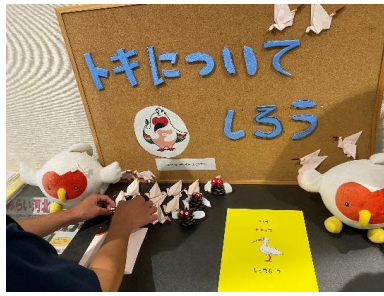
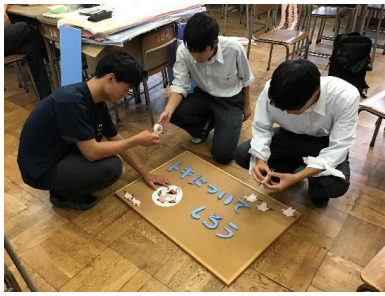
5. 新たな工作キャラクター「トキぼっくり」の考案

かつての先輩たちが、新潟県佐渡市にあるトキの野生復帰ステーションに研修で訪れた際に、「トキの巣作りに必要なマツを守るために」と書かれた大きな看板を見て、松ぼっくりを活用した「松ぼっくりのストラップ」や「ミニクリスマスツリー」といった工作教室の題材を考案しました。しかし、いつも同じことをしていても興味が薄れてしまうので、せっかくならトキの放鳥に絡めて、松ぼっくりを活用したトキのマスコットづくりへと工作教室の内容をアップデートしようと試みました。思考錯誤をかさね、松ぼっくりを活用した「トキぼっくり」が完成し、さっそく夏休み期間中に地元津幡町の放課後児童クラブにて、工作教室を実施しました。参加した児童たちも、トキについての学習と、完成した「トキぼっくり」で、とても充実した時間となりました。



6. 「トキについてしよう」コーナーの設置

トキについて少しでもたくさんの方に興味関心を持ってもらうために、「トキについてしよう」コーナーの設置に取り組みました。まずは、地元の津幡町から始めることにして、津幡町唯一の図書館を兼ね備えたコミュニティセンターである「津幡町文化会館シグナス」を訪問し、トキを知ってもらふコーナーを設置できないか相談しました。係の方は快く承諾してくださり、「トキについてしよう」コーナーが誕生しました。このコーナーには、人間がトキとどのように関わっていけばよいか分かりやすく説明してある絵本を展示し、また自由に持って帰れるトキの折り紙を置いたりしました。展示内容については、アンケートを取って随時更新していきたいと考えています。



IV. 今後の活動

私たちの活動は、本校生徒をはじめ、多くの県民にトキのことを知ってもらい、考えてもらうことを目標に活動しています。千羽トキやトキめき体験教室、「トキについてしろ」コーナーの設置などの取り組みを、さらに県内の様々な方々に伝え、活動の認知と定着を図りたいと思っています。

特に、今年の5月31日に行われた、本州発のトキの放鳥を経て、能登地域を中心として確実に県内でのトキに対する興味関心が高まっています。この放鳥で高まった機運を追い風に、私たちの活動も更に高めていきたいと思っています。